## 極座標変換と surface measure -

 $\xi \in \mathbb{R}^n$  に対して  $J(\xi) = \int_{S^{n-1}} e^{ix\cdot\xi} d\sigma(x)$  を考える. このとき,J は以下の性質をみたす.ただし, $S^{n-1}$  は n 次元単位球面とし, $\sigma$  は  $S^{n-1}$  上で定義された surface measure とする.

- (1) / は動径関数である.
- (2) Fourier 変換は動径関数を動径関数に写すことを認める. つまり,F(x)=f(|x|) に対して  $\hat{F}(\xi)=g(|\xi|)$  となる g が存在する. ただし, $f\in L^1(\mathbb{R}^n)$  の Fourier 変換  $\hat{f}$  は

$$\hat{f}(\xi) = \int_{\mathbb{R}^n} f(x)e^{-2\pi i x \cdot \xi} dx$$

で定義される. このとき g は f を用いて表すと

$$g(\rho) = \int_0^\infty j(2\pi r \rho) f(r) r^{n-1} dr$$

となる.

- (3) J is  $\Delta J + J = 0$  each  $\Delta J + J = 0$ .
- (4)  $j \lg \rho j''(\rho) + (n-1)j'(\rho) + \rho j(\rho) = 0$  & & & \tau.
- (5) n=3 のとき  $j(\rho)=\frac{4\pi\sin\rho}{\rho}$  となる.

## 解答

(1) 任意の  $R \in SO(n)$  に対して  $I(R\xi) = I(\xi)$  を示す.

$$J(R\xi) = \int_{S^{n-1}} e^{ix \cdot (R\xi)} d\sigma(x)$$

$$= \int_{S^{n-1}} e^{i({}^{t}Rx) \cdot \xi} d\sigma(x)$$

$$= \int_{S^{n-1}} e^{i(R^{-1}x) \cdot \xi} d\sigma(x)$$

$$= \int_{S^{n-1}} e^{iy \cdot \xi} d\sigma(y) \ (\because x = Ry)$$

$$= J(\xi)$$

よって、Jは動径関数であることが示された。

(2)  $F \in L^1(\mathbb{R}^n)$  とし、F(x) = f(|x|) なる f が存在するとする. このとき  $f \in L^1(\mathbb{R}^n)$  とな

る. Fubini-Tonelli の定理より

$$\begin{split} \hat{F}(\xi) &= \int_{\mathbb{R}^n} F(x) e^{-2\pi i x \cdot \xi} \, dx \\ g(|\xi|) &= \int_{S^{n-1}} \int_0^\infty F(r\omega) e^{-2\pi i r\omega \cdot \xi} r^{n-1} \, dr \, d\sigma(\omega) \\ &= \int_{S^{n-1}} \int_0^\infty f(r) r^{n-1} e^{i\omega \cdot (-2\pi r \xi)} \, dr \, d\sigma(\omega) \\ &= \int_0^\infty \left( \int_{S^{n-1}} e^{i\omega \cdot (-2\pi r \xi)} \, d\omega \right) f(r) r^{n-1} \, dr \\ &= \int_0^\infty J(-2\pi r \xi) f(r) r^{n-1} \, dr \\ &= \int_0^\infty j(2\pi r |\xi|) f(r) r^{n-1} \, dr \end{split}$$

となる. 後は、 $\rho = |\xi|$  とすればよい.

(3) $e^{ix\cdot\xi}$ ,  $ix_ke^{ix\cdot\xi}$ ,  $-x_k^2e^{ix\cdot\xi}$  は  $\xi$  について  $S^{n-1}$  上有界であるから  $\Delta J + J = \int_{S^{n-1}} (\Delta(e^{ix\cdot\xi}) + e^{ix\cdot\xi}) \, dx = \int_{S^{n-1}} (-\|x\|^2 + 1)e^{ix\cdot\xi} \, dx = 0$  となる.

(4)(3)より  $\Delta J+J=0$  である. ここで  $\xi=\rho\omega,\,\rho\in(0,\,\infty),\,\omega\in S^{n-1}$  とすると

$$\Delta J + J = \frac{\partial^2 J}{\partial \rho^2} + \frac{n-1}{\rho} \frac{\partial J}{\partial \rho} + \frac{1}{\rho^2} \Delta_{S^{n-1}} J + J = 0$$

となる. ここで, $J(\rho\omega)=j(\rho)$ であり, $\Delta_{S^{n-1}}j=0$ なので両辺 $\rho$ をかけると示される.

(5) n=3のとき、 $f(\rho)=\rho j(\rho)$ とすると、(4)の微分方程式は  $f''(\rho)+f(\rho)=0$ となる. よって f はある定数  $\alpha$ 、 $\beta$  を用いて  $f(\rho)=\alpha\cos\rho+\beta\sin\rho$  と表される. ここで  $f(\rho)=\rho j(\rho)$  より f(0)=0 であり、 $f'(\rho)=j(\rho)+\rho j'(\rho)$  より  $f'(0)=j(0)=\int_{\mathbb{S}^2}d\sigma(x)=4\pi$  となる. ゆえに  $\alpha=0$ 、 $\beta=4\pi$  となり  $j(\rho)=\frac{4\pi\sin\rho}{\rho}$  となる.